

平成31年2月18日(月)

国立大学前期入学試験まであと1週間

早稲田の試験が今週中にあり、それが終わると、本番となる国立大学前期試験だ。

1 慌てず焦らず

朝は、少し余裕を持って出かけよう。電車が事故でストップなどということも無きにしも非ずなので、少々すいている時間帯を狙って早めに大学に入ってほしい。控室や受験上で、全体の様子や人の動きや地震があった場合の逃げ道なども考えつつ、やるべきことはやったともう一度ノートを見つめながら、時間まで余裕を持って迎えてほしい。

その間、シミュレーションするのは、過去問から予想される全体の問題数と時間配分だ。違う傾向が突然出てきても、そのシミュレーションを変化させれば対応できるので、あらかじめ頭の中を整理して進むべき道筋を思い描いておこう。

問題が配布され、初めの合図があったら慌てず焦らず淡々と進めていこう。

2 諦めず

難しい問題だなと思ったらとりあえずスルーして全体を見極めよう。おそらく基礎部分と通常部分と難解部分に分けられるはずであるから、余裕をもって解くことができるところからずんずん解いていこう。

残りの時間と難解問題については、解答用紙をできるだけ大きく使って痕跡を残しながら解答しよう。東北大学は、その痕跡まで採点の対象となる。

特に国立大学は、回答者の苦労を垣間見ながら、採点者は採点するので、痕跡を消してしまわないようにしよう。東大だけは、枠内からはみ出ないようにきちんと解答しよう。

あと少しになっても、手掛かりはつかんでいるはずなので、残り1秒まで食らいつこう。その努力ができれば、さっぱりして次の教科科目に頭の切り替えができるはずだ。

3 明日を信じて

できることをし尽くしたのなら、明日を信じてとっとと帰ろう。

途中で暇つぶしや安ど感から街中を歩き回ったりせず、拠点にたどり着こう。温かいお茶など飲んで自分をほめよう。ゆっくり休んで、後期試験対策に切り替えよう。諦めない強い心をもって、最後の最後まで戦い抜こう。潔さなど今はいらない。とにかく、少しでも引がかかった何かについて自分のところまで手繰り寄せ、合格の扉をこじ開けよう。これこそ栄光をつかみ取る手立てだ。

